

アドバnst マイクロ デバイス(AMD)

【セクター】 半導体製造

信買

【市場】 NASDAQ

信売

【企業概要】

米ファブレス半導体大手。主にPCやデータセンターのサーバー、ゲーム機などに搭載されるCPU（中央演算処理装置）とGPU（画像処理半導体）、およびAPU（CPUとGPUの複合型チップ）などを開発・販売しています。ファウンドリー（半導体受託製造）大手TSMCの先端プロセス技術を活用することで、業界に先駆けて最先端7nmプロセスの製品化を実現しました。同社の製品・技術はソニーの「PS5」やマイクロソフトの「Xbox」など人気のゲーム機にも搭載されています。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

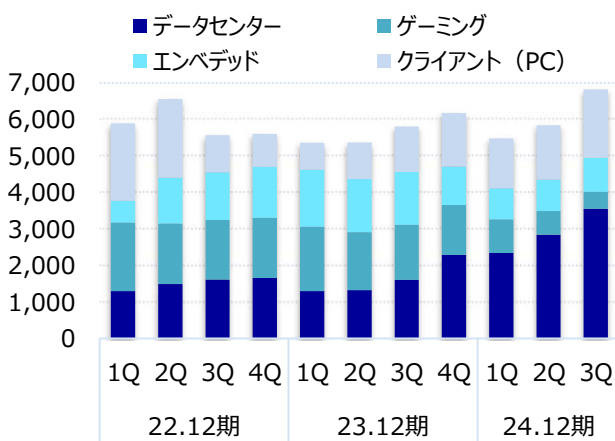
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.12期	23,601	1,715	1.09	0.00	34.0	4.2	81.0
23.12期	22,680	1,039	0.64	0.00	34.6	1.5	82.3
24.12期（予）	25,628	5,541	3.36	0.00	36.0	7.2	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

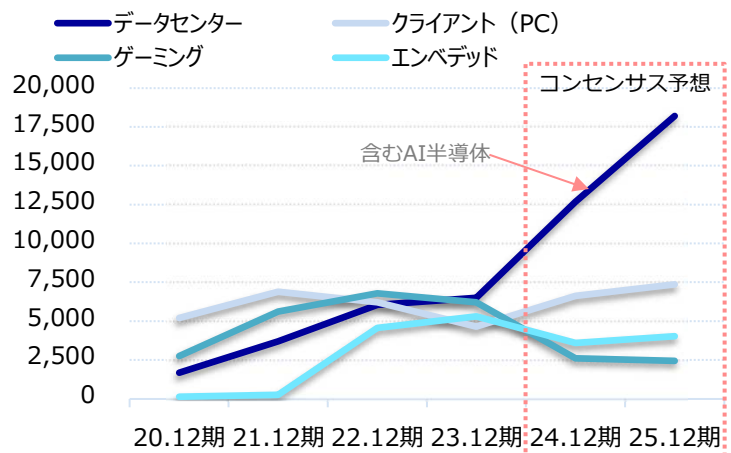
【主要指標】

部門別売上高の推移（百万ドル、四半期ベース）



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成

部門別売上高（百万ドル、通期ベース）



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

CPU分野で2017年に新製品を投入してから競合のインテルからシェアを奪いつつあります。同分野では、今後もインテルからシェアを獲得すると期待されます。一方、GPU分野ではエヌビディアが依然として優勢です。ただ、2023年からの生成AIブームはエヌビディアほどではないにしても、同社にも恩恵が及んでいます。テック大手がAIの導入を急いでおり、エヌビディア以外の製品に対する需要も増加しているためです。同社は需要を取り込むべく、2023年12月にAI半導体の新製品「MI300」を投入、顧客にはマイクロソフトやオラクルが含まれています。今後拡大が予想されるAI半導体市場で、同社は一定のシェアを獲得できるとみられます。

【見通し・注目点】

7-9月期決算は売上が前年同期比18%増、調整後EPSが同31%増と好調でした。部門別売上は、AI関連がけん引するデータセンターが前年同期比2.2倍、クライアントが同29%増と伸び、ゲームとエンベデッドの減少を相殺しました。一方、10-12月期の売上ガイダンスは中央値を75億ドル（前年同期比22%増相当）として、市場予想をやや下回りました。AI半導体の売上は24年12月期に45億ドルの見通しですが、どのような25年12月期ガイダンスが出てくるか注目されます。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりつく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。